

特集1 持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議 ～2014年11月、あいち・名古屋で開催～

1 ESDとは

ESDとは、Education for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な社会を支える担い手づくり」のことです。

1992年(平成4年)の環境と開発に関する国連会議(地球サミット、リオデジャネイロ)をきっかけに国連などが中心となって世界中で進められている取組で、環境、貧困、人権、平和など人類を取巻く様々な課題を自らの問題とし、環境・社会・経済を統合的かつ総合的に捉え、持続可能な社会の実現に向けて行動できる人を育てるということです。

2002年(平成14年)に開催された持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ・サミット)での日本政府の提案をきっかけとして、同年の第57回国連総会において、2005年から2014年までを各国政府、国連機関、NGO、団体、企業等あらゆる主体間での連携をとりながら教育・開発活動を推進する「国連ESDの10年」とすることが決議され、2009年(平成21年)の第35回ユネスコ総会で、2014年(平成26年)の最終年会合を日本で開催することが決定されました。

【ESDに関する世界の動きと国内の取組】

1987年 (昭和62年)	<ul style="list-style-type: none"> 環境と開発に関する世界委員会(ブルントラント委員会)による報告書「将来世代のニーズを充足する能力を損なうことなく環境を利用し、現在の世代のニーズも満足させるような開発」という「持続可能な開発」の定義が示された。
1992年 (平成4年)	<ul style="list-style-type: none"> 環境と開発に関する国連会議(地球サミット(UNCED))地球再生の行動計画「アジェンダ21」において、持続可能な開発のための教育の重要性が付加された。
2002年 (平成14年)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ・サミット)日本政府がNGOからの提言を踏まえて「ESDの10年」を提唱 第57回国連総会「国連ESDの10年」を決議
2005年 (平成17年)	<ul style="list-style-type: none"> 「国連ESDの10年」が始まる(～2014年まで)(「愛知万博」の開催)
2009年 (平成21年)	<ul style="list-style-type: none"> 「国連ESDの10年」世界会議(中間年会合)(ドイツ・ボン)日本政府が「国連ESDの10年」最終年会合の開催意思を表明 第35回ユネスコ総会2014年の最終年会合を日本で開催することを決議
2010年 (平成22年)	(生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の開催)
2011年 (平成23年)	<ul style="list-style-type: none"> 1月 愛知県が最終年会合の誘致を表明 6月 地元誘致委員会を設置、国に開催提案書を提出 9月 政府の関係省庁連絡会議において、2014年の「国連ESDの10年」最終年会合の閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合開催地を愛知・名古屋で開催と決定
2012年 (平成24年)	<ul style="list-style-type: none"> 5月 ESDユネスコ世界会議あいち・名古屋支援実行委員会設立 国連持続可能な開発会議(リオ+20)開催
2014年 (平成26年)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議の開催



開催地決定の際の大村知事、河村名古屋市長の共同記者会見

2 ESD ユネスコ世界会議の概要

この会議は、「国連 ESD の 10 年」における各国の ESD の取組の成果の共有を図り、2014 年以降の方策を議論する国際会議です。

平成 23 年 9 月に、国連持続可能な開発のための 10 年の関係省庁連絡会議において最終年会合を、愛知・名古屋で開催することが決定しました。

県は、この会議の開催を契機に、愛知万博や COP10 の開催を通じて高まっている「持続可能な社会」の大切さに対する意識をさらに高め、未来を支える人づくりを通じて、「持続可能な社会づくり」に貢献するとともに、地域の力を結集し、世界会議を成功に導くことで、本県のさらなる飛躍・発展につなげていきます。

- 1 会議名称：持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議

(UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development)

- 2 主 催：国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)、日本政府

- 3 開催期間：2014 年 11 月 10 日(月)から 12 日(水)まで

閣僚級会合、全体会合等

※ 11 月 13 日(木)には、日本国内の関係者による
フォローアップ会合を開催

- 4 会 場：名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)

- 5 参加規模：国内外の閣僚、政府関係者など約 1,000 人を含む数千人規模の参加を想定

- 6 内 容：「国連 ESD の 10 年(2005～2014 年)」の活動を振り返るとともに、2014 年以降の方策を議論する。

※ 岡山市では各種ステークホルダー会合を開催予定。



名古屋国際会議場

3 推進体制

(1) 地元の支援組織

会議成功に向けた取組のため、誘致に携わった愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所、中部経済連合会、愛知学長懇話会、中部 ESD 拠点に加え、主催者である国の関係省庁、教育機関など幅広い関係者とともに、ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会を平成 24 年 5 月 25 日に設立し、平成 25 年 4 月に地元の役割と取組を取りまとめた「開催支援計画」を公表しました。

会 長：愛知県知事

会長代行：名古屋市長

副 会 長：名古屋商工会議所会頭、中部経済連合会会長

委 員：愛知学長懇話会代表幹事、中部 ESD 拠点代表、内閣官
房内閣審議官、外務省地球規模課題審議官、文部科学
省国際統括官、環境省総合環境政策局長、愛知県市長
会会長、愛知県町村会会長、愛知県教育委員会教育長、
名古屋市教育委員会教育長、愛知県副知事、名古屋市
副市長、名古屋商工会議所専務理事、中部経済連合会
専務理事



第 3 回支援実行委員会
(平成 25 年 3 月 25 日 於名古屋観光ホテル)

(2) 県庁内における推進組織

県は、庁内全体での ESD ユネスコ世界会議の円滑な開催に向けた支援体制の構築と情報共有のため、知事が本部長を務める、愛知県 ESD ユネスコ世界会議支援本部を平成 23 年 11 月に設置し、支援体制を整えています。

名 称：愛知県 ESD ユネスコ世界会議支援本部
設立時期：平成 23 年 11 月 22 日
設立目的：世界会議の円滑な開催に向けた支援体制の構築と情報共有
構 成：知事（本部長）、4 副知事、県庁内の関係部局長等

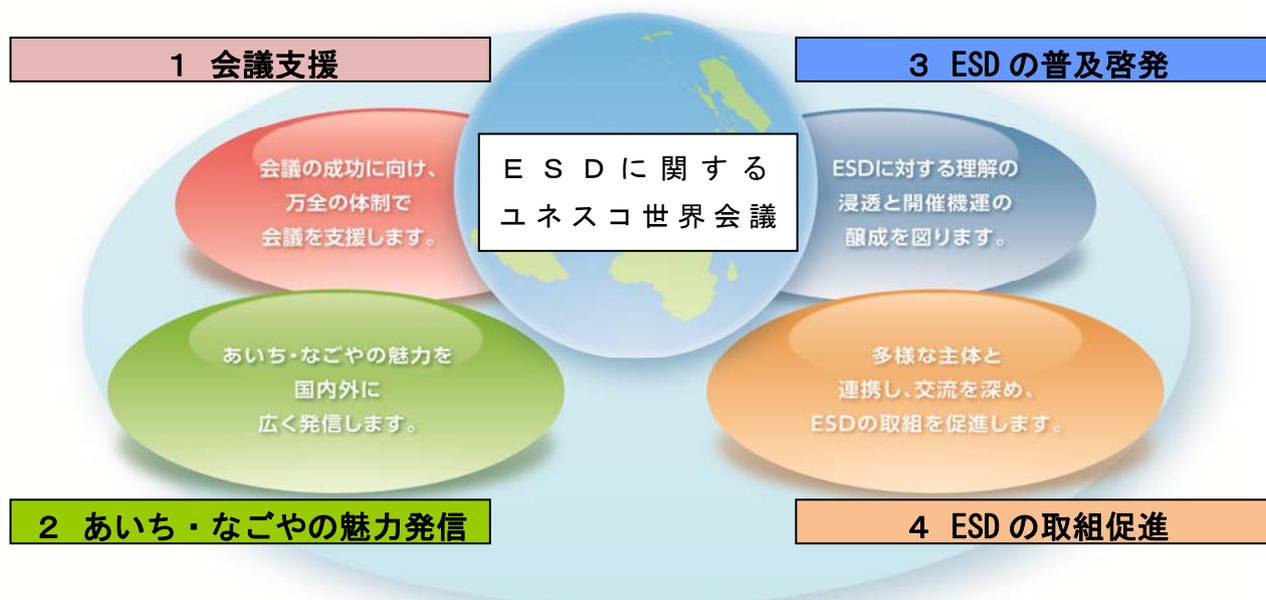
(3) 市町村との連携

県は、県内の全市町村により構成される ESD ユネスコ世界会議支援市町村連絡会議を平成 24 年 2 月に設置し、県内全域で世界会議開催に向けた機運醸成と ESD の取組促進を図っています。

名 称：ESD ユネスコ世界会議支援市町村連絡会議
設立時期：平成 24 年 2 月 23 日
設立目的：県内全域における、最終年会合に向けた機運醸成と ESD の取組の促進
構 成：県内 54 市町村の ESD 担当課長

4 世界会議開催に向けた取組内容

支援実行委員会では、関係機関等との連携を図りつつ、「会議支援」、「あいち・なごやの魅力発信」、「ESD の普及啓発」、「ESD の取組促進」の 4 つの柱で、世界会議を全力でサポートします。



(1) 会議支援

支援実行委員会は、主催者と連携しながら、世界会議が安全・安心で、円滑かつ快適に行われるよう、関係機関などとの連携・協力のもと、万全の体制で支援します。

【第 37 回ユネスコ総会における開催地の PR】

大村秀章知事（支援実行委員会会長）は、平成 25 年 11 月 5 日（火）から 8 日（金）まで、ESD ユネスコ世界会議の開催地の PR のため、フランス・パリ市にあるユネスコ本部を訪問しました。現地では、ユネスコ総会が開催されており、ユネスコ加盟各国の総会参加者に対して ESD・PR 行事や開催地主催レセプションを行い、あいち・なごやの魅力や地域の ESD の取組を紹介しました。併せて、来年の ESD 世界会議への歓迎の意を伝えました。また、イリーナ・ボコバ ユネスコ事務局長始め、ユネスコ関係者やユネスコ日本政府代表部大使、駐仏日本大使など、世界会議関係者等と面談し、来年の会議に向けた連携について意見交換しました。



ユネスコ総会



ESD・PR 行事



開催地主催レセプション

（2）あいち・なごやの魅力発信

支援実行委員会は、会議を契機として、地域の多様な魅力を世界の人々に体感していただくとともに、国内外に向けて積極的に発信します。

（3）ESD の普及啓発

支援実行委員会は、キャッチフレーズやロゴマークを活用した普及啓発、イベントの開催などにより、ESD に対する理解の浸透と、開催機運の醸成を図っています。

<開催地ロゴマーク>



<デザインコンセプト>

「つながり、ひろがり、開花する、ESD Flower」

デザイナー

おがわ あきお
小川 明生 氏

（名古屋市在住のグラフィックデザイナー）

<キャッチフレーズ>

未来を創るわたしを育む ESD

作者（一般公募）

かわむら のりこ
川村 典子さん（豊田市小学校教諭）

作者コメント：未来に向けて持続可能な社会を創るのは わたし自身であり、そのわたしを育ててくれるのは ESD であることを表現しました。

【あいち ESD フェスタ 2012（開催 2 年前イベント）の開催】

愛知県は、ESD ユネスコ世界会議の開催決定記念として、県民の方々に楽しく、参加、交流しながら ESD を学んでいただくイベントを開催しました。

尾張会場 日時：平成 24 年 11 月 3 日（土）、4 日（日）

会場：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター

内容：ESD ユネスコ世界会議キックオフセレモニー

ESD を紹介するワークショップ、ステージイベント 等

三河会場 日時：平成 25 年 1 月 26 日（土）、27 日（日）

会場：こども未来館 ここにこ（豊橋市）

内容：キックオフセレモニー、ESD を学び・体験し・楽しむコーナー
イベントステージ、クイズラリー 等



キックオフセレモニー



ワークショップ

【開催1年前イベント】

支援実行委員会では、ESD ユネスコ世界会議の1年前を記念して、会議開催地としての機運を盛り上げ、多くの県民の皆様にご理解いただき、世界会議の開催について広く認知していただくために、9月から12月にかけて県内3カ所（名古屋、尾張、三河）で開催1年前イベントを開催しました。

平成25年9月14日（土）・15日（日）は「あいち・なごやESD フェスタ 2013 in 名古屋」と題して、久屋大通公園のもちの木広場及びさかえ川周辺で、「環境と芸術の交差点」をテーマに開催しました。

ステージでは、オープニングセレモニー、ESD-PR アンバサダーのお披露目、文部科学省のESD オフィシャルサポーター日比野克彦氏によるトークショー、劇団シンデレラによるESD ミュージカル及びユネスコスクール等による活動発表などが実施されました。

また、ブースゾーンでは、環境、防災、人権・平和、文化など様々な分野から43のESD活動団体等にブース出展いただき、各団体のESDに関する取組の紹介や様々なワークショップが実施されました。

このほか、尾張地区では11月23日（土）・24日（日）に尾張一宮駅前ビルで「新しい国際理解」をテーマに、三河地区では11月30日（土）・12月1日（日）に豊田産業文化センターで「伝統・技術・文化の継承」をテーマに開催し、ステージイベントやブース展示など盛りだくさんの内容で実施しました。



開催1年前イベント
オープニングセレモニー



ブース展示

（4）ESDの取組促進

支援実行委員会は、会議を契機として、NPO、教育関係者、企業、行政機関など、地域の多様な主体と連携しながら、持続可能な社会づくりに向けた取組をさらに進めます。

ア ESD あいち・なごやパートナーシップ事業

支援実行委員会は、世界会議のPRやESDの普及促進に、支援実行委員会と一緒に取組み、会議を盛り上げていただく事業・イベントを登録する「ESD あいち・なごやパートナーシップ事業」により、NPO、企業、行政機関など、多様な主体によるESDの取組を促します（平成25年11月現在254件）。



愛・知・みらいフォーラムの
高校生夏休み国際理解教育特別講座



環境ボランティアサークル亀の子隊の
きれいな海を守る心を広げるためのプログラム

イ あいち・なごやの ESD 交流・発信の場

支援実行委員会は、あいち・なごやの多様な主体による取組をさらに前進させるため、世界会議の開催に併せ、さまざまな分野で活動する団体が集い、交流し、発信する場を設けます。

ウ ESD 子ども会議の開催

支援実行委員会は、世界会議に併せて、未来を担う子どもたちが、主体的に持続可能な社会づくりについて話し合う「子ども会議」を開催する予定であり、今年度は、その一環として、「ESD 子どもフォーラム」を開催しました。

この「ESD 子どもフォーラム」は、本県の子どもたちが、県内各地に出かけ、ESD 事例を学習するエクスカーション（現地学習）、エクスカーションで学んだことを皆で議論するグループディスカッション、議論の成果を発表する子どもフォーラムから構成されています。

【ESD 子どもフォーラム】

参加者：小学校 5 年生～高校生 138 名

内 容：

1 エクスカーション（8 月）

子どもたちが、県内各地で、ESD の事例を学習しました。

環境学習コース：

蒲郡市生命の海科学館・竹島

国際理解学習コース：リトルワールド

防災学習コース：名古屋市港防災センター

2 グループディスカッション（10・12 月）

エクスカーションの学びを基に、子どもたちが、持続可能な社会づくりに向けてどうすべきか議論しました。

3 子どもフォーラム

エクスカーション、グループディスカッションを経て、学び・話し合った成果を、子どもたちにより発表します。



竹島での干潟観察
（環境学習コース）



生き物 MAP づくり
（環境学習コース）



グループディスカッション

エ 学校における取組

ESD の推進拠点であるユネスコスクールを中心として、幼稚園、小・中・高校などの学校現場において、様々な ESD の取組を行っています。

県では、ユネスコスクールの加盟拡大により、学校における ESD の取組をさらに促進していきます（平成 25 年 11 月現在 54 校）。

※ユネスコスクールとは

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、昭和 28（1953）年に創設され、(1) 地球規模の問題に対する国連システムの理解、(2) 人権、民主主義の理解と促進、(3) 異文化理解、(4) 環境教育、といったテーマについて、質の高い教育を実践する学校です。世界 180 カ国で約 9,500 校が、日本国内では、平成 25 年 11 月現在、647 校の幼稚園、小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学がこのネットワークに参加しています。

【ユネスコスクール取組例】

一宮市立浅井北小学校

浅井北小学校では、ESD カレンダーを作成し、「自然環境との関係性」「他人との関係性」「社会との関係性」についてプロジェクトを実施しています。

自然環境との関係性については、「生命や自然を尊重する心の育成」「自然と人が共生できる環境づくりに主体的に関わる態度の育成」を目指し、ホタルやヤゴの飼育活動を行っています。

ホタルの飼育活動では、「ホタルを子どもたちに見せたい」との地域の声から協力を得て、全児童で校内のホタル池に、児童が飼育してきたホタルの幼虫を放流し鑑賞会を実施しました。

また、ヤゴの飼育活動では、地域のビオトープ管理士の協力のもと、トンボ教室を開催したり、プールでヤゴを救出し、教室や家庭で育ててトンボにして自然へ放したりしました。



ホタルの幼虫の放流



トンボ教室

岡崎市立新香山中学校

新香山中学校の学区内では、ここ数年、イノシシやサルなどによる獣害が悪化し、以前から生徒たちが保護活動に取り組んでいるササユリも被害にあっている状況です。また、地域の現状としては、新興住宅が開発されたり、新東名高速道路の橋脚建設が進められたりしています。さらに、山の保全活動として、間伐や下草刈り、緩衝地帯の維持などが進められていない実態もあります。そこで、生き物と人間の共生社会の在り方について考えさせることにしました。

実践としては、地球規模で起きている問題を地域の課題と共有するために「バイオリージョンマップ」を作成したり、「獣害問題」について地域の人から聞き取り調査を行ったりしました。

また、市内でイノシシを駆除している猟師さんをゲストティーチャーとして教室に招き、原因や背景についてお話しをしていただきました。

こうした実践を通して、害獣であっても、種としての役割があり、人間がバランスを整えてこそ共生社会が実現するということを、生徒たちが理解することができました。



生徒の調査活動



環境学習講座

オ 企業における取組

世界をリードするモノづくりの拠点として、環境に優しい商品開発など、持続可能な社会に配慮した活動を、多くの企業が進めています。また、ESDの視点を取り入れた人材育成や、NPO、学校

など地域と連携した環境学習プログラムなどのCSR活動に取り組み、それらをサステナビリティレポートとしてまとめるなど、企業においても、ESDに関連したさまざまな取組を行っています



環境学習プログラム
(アイシン精機株)



自然ふれあい体験プログラム
(トヨタ自動車株)



子ども環境学習プログラム
(ユニー株)

カ 行政における取組

「環境面で持続可能な社会を支える人づくり」を進めるため、本県では環境教育を始めとして、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

また、各地域での取組促進には、住民と直結した市町村の役割が重要であり、県内市町村において多様な主体と連携しながらESDに関する施策展開を行っています。

ESDについての理解を深め、具体的な施策展開につなげていただく「自治体職員のためのESDセミナー」を7月から12月にかけて開催しました。このセミナーは、全体セミナー、現地視察(豊田市、長野県飯田市)、グループワーク(全5回)で構成され、県内54市町村職員及び県職員など延べ約600名が参加しました。参加者には、多様なテーマのESD関連施策の具体例から、参加者が自らESDを施策にどう展開していくか考えるよいきっかけとなりました。



親子クッキング(豊田市)



里山体験(日進市)

さらに、愛知県では世界会議を契機として、この地域にESDを根付かせるため、地域づくりの中核的な担い手である市町村職員の方等を対象に、



全体セミナー



現地視察(豊田市)